火の山山麓のトルコチューリップ園から望む関門海峡

（菊地）
そんな時に、たまたま角島大橋の絶景を見つけました。山口県を調べているはずなのに、まるで沖縄みたいと感動したことを覚えています。

実際に移住してきて、下関市と宮古市は本州四端協定を結んでいることを知って、すごく縁を感じました。遠くなってしまった故郷がこんな形で近くに感じられるなんて。

道の駅で観光をPRしながら、移住希望への橋渡しの活動もできたらなと思っています。

（市長）
皆さん素晴らしい活動をされていますね。

和田さんが言われた観光事業論について、市民に改めて知ってもらいたいですね。

夜景で人を増やすということが評価されるとやりがいがあります。この冬もイルミネーションが増えますが、本当にきれいなんですよ。下関駅から海沿いの唐戸まで明かりがつながります。

菊地さんも、岩手から来られて5年目ということで道の駅で頑張っていただいてるし、道の駅豊北は1000を超える道の駅の中で、口コミで全国ナンバーワンになりましたね。中国5県のスタンプラリーの企画も道の駅豊北が第1位になっていましたね。

移住者の情報ですが、市単独というよりは県との連携が大事になります。山口県にも提案をしてあげてください。

これからのおもてなし 未来への思い

（菊地）
今回トリップアドバイザーで1位をいただいたことをきっかけに、今までの取り組みを見直して、月々のイベントや観光客が楽しめるイベント、地元の人にお得な優しいイベントを行なおうと心掛けています。

テラスからは角島大橋と角島が真横から見えます。お客様が「わぁきれい」といってくれるのがすごくうれしいです。

移住してすぐ、観光イベントで福岡や広島などに行ったとき「角島ってご存知ですか」って聞いても誰も知りませんでした。ですが1年、2年、3年と経つと、もう大体の人が角島のことを知っていて、知名度上がってきたなっていうことが実感できます。

道の駅では韓国の方のほかに、英語圏の方もいっぱい来ています。パンフレットを渡すだけじゃなくて、コミュニケーションを取れる形づくりをしたほうがいいんじゃないかなと思っています。あそこに行ったら英語が話せるよっていうのが大事じゃないかなって。

それから、しつこいくらいインターネットを使って情報発信できたらと思ってます。

（上田）
「おもてなし」はお客さん向けで「まちづくり」は住人向けと区別して考えがちですが、私は一体のものだと思っています。

地域の魅力を物語で伝えるには、語り部役を担う地元のガイドさんの力が大事です。ガイド主催のハイキングには毎回定員以上の参加があります。ガイドさんがニコニコ顔で案内してくれるので、大好評です。

いろんな地域でまちづくり協議会が立ち上がって、住民や地域グループが自分たちの地域の歴史や見どころなどの地域資源を生かして活動しています。そこに民間事業者が商売の得意分野で連携すれば、例え規模は小さくても長続きするまちづくりが描けるはずです。観光だけじゃなくて、地域の社会問題も地域経営型で地域ビジネスで解決していこうという機運が生まれるでしょう。

私は10年も経てば、おそらくそういうのが当たり前の時代になっていると思います。

（伊藤）
豊田は昔から地域のハブ（中継拠点）として栄えてきました。まだまだチャンスあると思うんですよね。

「角島特需」って僕らはいっているんですけど、必ず豊田町を通らないといけないんですね。本当に大渋滞なんです。北九州から長門や萩に行く方も必ず豊田を通る。

そんな方を2時間でも3時間でも豊田に滞在をしてもらおうと、今後の目標は、今ある宝物（梨・ジビエ・紅葉）をもっともっと「磨く」事に力を入れていきたい。そのためにも、まちづくり協議会を中心に、受け入れる側も意識改革をしなければいけないなと思っています。

（和田）
おもてなしに関しては、すでに海響マラソンで数千人のボランティアが参加してくれています。市民のおもてなしの機運はものすごく高くなっています。

角島や、豊田、川棚、菊川へは車で行くイメージがありますよね。そこで、スポーツ振興を進めるためにも「サイクルトレイン」というのも面白いと思います。

山口県も「サイクルタウン構想」としていろいろ事業を行っていますしね。サイクルトレインとは、自転車を車内に持ち込んで乗れる列車で、下関の離発着の列車の中にも作っていただきたいなと思っているんですよ。そうすると、滝部駅に降りたら自転車で角島まで行くことができる。

それと、観光キャンペーンで今年は駅弁コンテストをやってみた

いなと考えています。下関には駅弁がないですから。ハードルはありますが、地元で開発した駅弁を、下関の駅に置くことができたらと。

平成26年に行われた、下関コラボグランプリで、下関牛を使った「肉飯馬関奇兵隊」というのを作ったんですよ。この弁当は準グランプリをいただきました。昔、奇兵隊が焼肉を食べたであろうっていう史実を元に考案したんです。そんな感じで、維新の時に食べたであろうと言われる吉田の米や、これからの人気が期待されるジビエとか、各地区で協力し合ったら1個弁当できるんじゃないかって。

この企画を、JRのデスティネーションにあやかってできたらいいなと思っています。

（川田）

一番気を付けているのはお客様が何を求めているか。道の駅では観光地などへの道案内も重要な役割りの一つです。

道の駅きくがわは、小月ICから近いので九州から来られる方に角島、川棚温泉、長門の元乃隅稲成神社への行き方を聞かれます。お客様が何を求めているかを会話の中からキャッチして、お客様に提供する。それが私たちの最善のおもてなしなんだろうなと思い、心掛けています。

それから、下関弁というのをもうちょっと皆さんに使っていただいてもいいんじゃないかなと。下関弁で話をすると興味を持ってもらえるしコミュニケーションの幅が広がります。なので、皆さんにも、あえて下関弁を使ってほしいですね。

（下本）

吉田でも独自のまちづくり協議会を立ち上げました。今年は第一弾として「吉田宿　楽市」と吉田ならではの食べ物、昔を懐かしむものをやっていきたいなと。高杉晋作や下関の歴史をもっと知ってもらうために、吉田小学校では「晋作塾」なるものを年4回程度開催することにしています。

あとは旧街道ですね。歩いて観光される方も増えています。旧街道の整備もぜひお願いしたい。

（市長）

ありがとうございました。

本日お集まりいただいた皆さんから、本市の自然がもたらす豊かな恵みや歴史、文化など特徴ある資源が数多くあることが再認識できました。地域の皆さんが地域資源を生かしたおもてなしをすることで地域の活性化につながります。地域のそれぞれの元気が下関全体の元気につながります。

市としても、交流人口の拡大を目的にさまざまな支援をしていこうと考えています。

本日はお忙しい中お集まりいただき、誠にありがとうございました。

地域の元気が未来の下関を創ります！
皆さんが主役です！頑張りましょう!!

問広報広聴課（☎231－2951）